

「世界難民の日」記念シンポジウム '07

「ビルマ人に自由を！ 祖国においても、ここ日本においても
——国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチを迎えてく在日ビルマ難民が問う私たちの課題>」

賛同のお願い

●6月20日は国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が定めた「世界難民の日」です。

日本でも多くの人々がビルマ（ミャンマー）軍事政権からの迫害を逃れて難民申請しています。しかしほとんどの人々の主張は認められず、現在も100名近いビルマ人が窓もない入国管理局の施設に閉じ込められ帰国への同意を迫られています。

ビルマは1962年以来軍政下であり、憲法も議会もなく、銃口による支配が続いています。軍政はゲリラ対策や開発政策のためと称して、大規模な強制移住や強制徴用、物資の略奪、拷問、略式処刑、性暴力などの大規模な人権侵害を行っており、アウンサンスーチー氏ら反体制活動家約1200人を投獄しています。国際社会はビルマの深刻な人権状況を大いに懸念しています。

しかし日本の難民認定機関である入国管理局は、ほとんどの難民申請者の主張を庇護に値しないほど誇大で根拠に欠けていると退けています。本当にリスクを正しく把握した上での判断なのでしょうか。

迫害を特別な人々が経験する例外的な経験のようにみなす入国管理局と、ビルマの人権状況の間には大きな齟齬があります。しかし、このような認定実務、入管行政に信認を与えているのは私たちです。ビルマ軍政の実態、日本の難民認定の実態への社会的無関心が、わずか一握りの認定者と大多数の収容という現実を生んでいます。

一方で日本政府は、人権担当大使を置き、国連などで「人権重視国・日本」をアピールしようとしています。

私たちはビルマの人々とともに生きるために、ビルマの未来のために何をすべきなのか、名実ともに「人権重視国・日本」となるために日本は何をすべきなのでしょうか。

こうした課題をともに考えるため、世界難民の日を記念し、シンポジウムを企画しました。スピーカーには、米国の権威ある人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチのビルマ担当ディビッド・マティソン氏（大阪会場）等をお招きします。この企画をできるだけ多くの人々と共同して取り組み、ビルマ難民受入れを求める世論形成を図りたいと思っております。

真意をご理解いただきご賛同いただきますようお願い申し上げます。

賛同集約および連絡先：2007年世界難民の日実行委員会

電話：06-6922-8939（RINK 岩田）、FAX：072-684-0231（RAFIQ 田中）

<http://rafiq.jp/wrd/>（最新情報はサイトにてご確認ください）

郵便振替口座：00970-7-298753（口座名：ビルマ人に自由を！難民の日シンポ準備会）

※賛同呼びかけにご協力頂ける団体様：ご連絡頂ければ加入者負担振込用紙を送付します。
枚数・送付先を下記にご連絡下さい。（FAX: 072-626-4501 辻田）

主催：2007年世界難民の日実行委員会

後援：(社) アムネスティ・インターナショナル日本

協力：日本UNHCR協会

構成団体／

西日本入管センターを考える会、日中友好雄鷹会大阪府本部、TRY（外国人労働者・難民と共に歩む会）、ビルマ難民達、RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）

賛同団体／

（特活）アーユス仏教国際協力ネットワーク、移住労働者と連帯する全国ネットワーク、在留資格を求める配偶者の会、(社) シャンティ国際ボランティア会、女性と仏教東海・関東ネットワーク、高槻むくげの会、名古屋ビルマ弁護団、難民・移住労働者問題キリスト教連絡会、反「入管法」運動関西交流会、日本ビルマ救援センター、日本ビルマ問題を考える会、東日本入管センター面会支援キリスト教ネットワーク（牛久面会ネット）、ビルマ市民フォーラム、RINK（すべての外国人労働者とその家族の人権を守るネットワーク）

（※2007年4月1日現在／50音順）

2007年「世界難民の日企画シンポジウム」企画書

2007年4月1日

2007年世界難民の日実行委員会

1. 概要

趣意書の意図に基づき、関西その他地域でシンポジウムを行い、前後のビルマ難民の証言を聞く会を企画する。

2. 企画内容

1) 関西集会（「世界難民の日」記念シンポジウム'07）

- ・日時：2007年7月1日（日）午後12：30～（11時から写真ブース展会場）参加費：1000円
- ・会場：：大阪市立住まい情報センター 3Fホール（地下鉄「天神橋筋六丁目」すぐ、JR「天満」徒歩7分）
- ・内容（以下のスピーカーによる講演と質疑）
 - ・デイビッド・マティソン氏（ヒューマン・ライツ・ウォッチ ビルマ担当）
「ビルマの人権侵害の真実 ～ビルマ民主化のために日本が果たすべき役割～」
 - ・キンマウンラ氏（ビルマ難民）
「偽装難民と呼ばれて—難民認定までの長く厳しい道のり」
 - ・馬島浄圭氏（日本ビルマ問題を考える会）
「私が寄り添うビルマ人難民申請者たちの素顔」

2) 東京集会

- ・日時：2007年7月8日（日）午後6：30～ 参加費：800円
- ・会場：文京シビックホール 小ホール（地下鉄「後楽園」または「春日」徒歩3分、JR「水道橋」徒歩8分）
- ・内容：演題未定。スピーカー以下
 - ・土井香苗氏（ヒューマン・ライツ・ウォッチ、ヒューマンライツ・ナウ）
 - ・渡邊彰悟氏（在日ビルマ人難民申請弁護団）
 - ・その他（ビルマ難民）

3) ポスター、チラシを使った世論形成、意思決定者への働きかけ

- (1) 広範囲なポスター、チラシの掲示・配布要請活動を通じて、問題を広く知ってもらう。
特に国会議員への提供活動を行い、注意喚起を行う
- (2) 国会議員から賛同メッセージをもらう
- (3) できれば法務省、外務省、UNHCRなどへの要請を行う

3. 運営体制

- 1) シンポジウムの運営は現地の地方実行委員会が行う。
- 2) 会計は口座を設け、一括して管理する。主な支出は、マティソンさんの旅費滞在費（15万円）、ポスター／チラシ作成費（15万円ほど）、会場費用。
- 3) 賛同金／カンパ：個人500円、団体1000円（一口。何口でも可）
賛同の送り先：実行委員会 FAX：072-684-0231（RAFIQ、田中）
郵便振替口座：00970-7-298753（名義「ビルマ人に自由を！難民の日シンポ準備会」）

※賛同呼びかけにご協力頂ける団体様：

ご連絡いただければ加入者負担振込用紙を送らせて頂きますので必要枚数と送付先を下記にご連絡下さい。（FAX：072-626-4501 辻田）

参考：2007年世界難民の日 関西会場 企画書

目的	<p>* 6月20日の世界難民の日を市民に知ってもらう。 * 難民鎖国と言われている日本の現状を知ってもらう。 * 現在日本の最多の難民であるビルマ難民の受け入れについて取り組む。</p>	
	<p>* 昨年の日本難民認定数は34人、世界の中では受け入れに消極的な国です。 * 昨年の難民申請者954中626人がビルマ人、100名近くのビルマ人が入管に収容されています。 * 昨年の関西世界難民の日実行委員会で2007年の開催が決定されていました。</p>	
日程	2007年7月1日(日)	
場所	大阪市立住まい情報センター 3Fホール (地下鉄「天神橋筋六丁目」すぐ、JR「天満」徒歩7分)	
概要	講演	<p>・ディビッド・マティソン氏 (ヒューマン・ライツ・ウォッチ ビルマ担当) 「ビルマの人権侵害の真実 ～ビルマ民主化のために日本が果たすべき役割～」</p> <p>・キンマウンラさん(ビルマ難民) 「偽装難民と呼ばれて—難民認定までの長く厳しい道のり」</p> <p>・馬島浄圭さん(日本ビルマ問題を考える会) 「私が寄り添うビルマ人難民申請者たちの素顔」</p>
	写真展	*世界の難民 *ビルマ難民など
	ブース	*難民支援団体 *外国人支援団体 *難民団体など
	その他	検討中
参加予定	200名	
対象者	*市民 *難民支援者 *難民申請者など	
構成団体	西日本入管センターを考える会、日中友好雄鷹会大阪府本部、TRY(外国人労働者・難民と共に歩む会)、ビルマ難民達、RAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)(50音順)	
後援	(社)アムネスティ・インターナショナル日本	
協力	日本UNHCR協会	
連絡先	<p>田中恵子 072-684-0231 岩田賢司 06-6922-8939 電子メール: rafiqtomodati@yahoo.co.jp (RAFIQ)</p>	
賛同金 振込先	<p>郵便振替口座: 00970-7-298753 (名義「ビルマ人に自由を!難民の日シンポ準備会」)</p>	